

開催地名	千葉県 大網白里市
開催日時	令和6年10月6日(日)13:30～15:00
開催場所	大網白里市立増穂小学校
語り部	中野 雅嗣(新潟県長岡市)
参加者	大網白里市市民 300名(一般市民70名 増穂小学校児童及び教職員230名)
開催経緯	小学生に対する防災知識の普及や啓発が不足している。 また、災害を経験していないため、体験者からの実体験話をすることで、大規模災害(地震)に対する恐怖や備えの大切さを認識してもらいたい。
内容	■ はじめに 増穂小学校で実施された防災講座「地震から自分の身を守ろう！」では、児童たちが地震の危険性を学び、災害時の適切な行動について考える機会が提供された。本講座では、地震発生時のリスクについて写真や体験談を交えて学び、生徒同士のディスカッションを通じて防災意識を高めることを目的とした。 ■ 地震の影響と危険性 2004年の新潟県中越地震を例に、地震がもたらす被害について写真を用いながら解説が行われた。最大震度7を記録したこの地震では、以下のような被害が発生した。 ・倒壊した建物や傾いた家屋 ・室内に散乱した家具や家財 ・瓦が崩れ落ちた屋根 ・割れた窓ガラスや倒れた電柱 ・崩れたブロック塀や自動販売機 ・高速道路の崩壊 ・道路に書かれたSOSメッセージ ・道路にできた大きな穴や飛び出したマンホール また、学校内でも地震の影響が大きいことが指摘された。 ・倉庫や図書室の棚が倒れるリスク ・教室内のピアノ(約240kg)の倒壊リスク ・落下する食器や棚の中の物による危険 これらの事例を通じて、地震発生時には「落ちてこない」「動いてこない」「倒れてこない」という3つの条件を満たす場所で安全を確保することが重要であると伝えられた。 ■ 地震発生時の行動について 児童たちは、地震発生時の安全行動についてディスカッションを行い、それぞれの意見を発表した。 Q. 地震発生時に机の下に隠れた場合、どのようにすればよいか？ A. 机の足をしっかりと押さえる。 また、地震はいつ発生するか分からないため、日常の行動が重要であることが強調された。講師の中野先生が、震災当時の体験を語った。 ・地震発生時、風呂に入っていたが、すぐにリビングに向かい家族の安全を確認。 ・妻と2か月の子どもが食器棚のそばにいたため、すぐに離れるよう指示。 ・その直後に食器棚が倒れ、危機一髪で命を守ることができた。 この体験談から、「事前に危険な場所を把握し、備えておくことの大切さ」が伝えられた。 ■ 学校での危険性と避難行動 生徒たちは、学校の各場所で地震発生時にどのような危険があるかを考え、ディスカッションを行った。 【図書室の危険】 ・椅子がひっくり返る ・本棚が倒れる ・大型のモニターやテレビが落下する可能性

【安全な場所】

- ・テーブルの下に隠れる

【廊下の危険】

- ・割れたガラスの破片が飛び散る
- ・ドアが割れる危険性
- ・階段で転倒するリスク
- ・壁に付いた画鋲が飛んでくる可能性

【安全な場所】

- ・机の下に隠れる
- ・コーンやかばんで頭を守る
- ・手すりに掴まり、姿勢を低くする

このように、机の下に入るだけでなく、その場の状況に応じた柔軟な避難行動が求められることが強調された。

■ まとめ

地震は予測が難しく、いつ発生するか分からない。しかし、事前に備えておくことで、被害を最小限に抑えることができる。

・緊急地震速報が鳴った後、数秒以内に震度5弱以上の揺れが発生するため、その間に安全な場所へ避難することが大切である。

・通学路や自宅、学校内の危険な場所を普段から確認し、地震発生時にどのような行動を取るべきかを考えておく。

・「もし地震が起きたら？」と想像し、適切な対応を日常の中で意識することで、いざというときに素早く行動できる。

防災は特別なものではなく、日常生活の延長であることを理解し、一人ひとりが地震に備える意識を持つことが重要であると講演は締めくくられた。



開催地より

新潟中越地震の体験談を基に、地震発生時の身の守り方や日常の危険な場所を考える講演をしていただいた。児童も真剣に話を聞いたり、発表も積極的に参加しており、講演会を実施して良かったと感じる。今後も同プロジェクトを活用していきたい。